

心に寄り添える 手話通訳専門員に

「30年ほど前、伊達市職員だったとき、広報担当として地域で行われている聴覚障害者協会の行事を取材する機会がありました。そのとき、表情豊かに生き生きと手話を使って話す方と出会い、『わたしもこんな風に手話を通じてお話をしてみたい』と、その魅力に惹きつけられたことが、手話を始めるきっかけでした」と話す大鎌佳奈美さん。

大鎌さんは、昨年行われた、手話通訳者として必要な知識と技能について審査する『手話通訳者全国統一試験』に挑み、猛勉強の末、合格率1割の難関を見事突破しました。

「手話は、手だけでなく、口の動きや表情、身振りを使って表現します。手話通訳専門員として、市役所窓口での説明を手話を介して正確に伝えることができるようにこれからも日々勉強し、技術を磨かなければいけないと思っています。そして、聴覚に障がいのある方が何を望んでいるのか、どうしてほしいのか、その思いの深さを感じ取り、心に寄り添いながら相手の気持ちに立てる手話通訳専



▲市役所窓口で手話を使って相談に応じる大鎌さん

門員になっていきたいと思っています」と、大鎌さんは熱意に満ちています。

手話から人と人の つながりが生まれる

相手の思いを汲み取り、正確に伝えることが大事だと話す大鎌さん。

「手話は言語の一つであり、手の動き一つ一つに意味があります。皆さんが日ごろ何気なく使っている手の動きが、実は手話に通じていることもあるので、その意味を知り、手話への理解を深め、実際に手話に親しむことで、さまざまな方との会話が広がり、豊かで楽しいものになると思います」と笑顔で話す大鎌さん。
相手に寄り添った手話で、きょうも相談に応じます。



KIRARI

おお かま かな み
大鎌佳奈美さん

聴覚に障がいのある方の日常生活支援を目的に、ことし4月から市障害福祉グループで手話通訳専門員として勤務している大鎌佳奈美さん。

業務は、市役所や公共機関・団体への手続きや相談、病院受診時などの手助け、行事やイベントの通訳要請に対応するなど多岐にわたります。

長きにわたって手話と関わり、手話について学んできた大鎌さんに、手話通訳専門員としての思いや手話の魅力を聞きました。

手話は、私を成長させ、人と人を結び付けてくれるもの



昭和38年、伊達市生まれ。51歳。
藤女子短期大学を卒業後の昭和59年から13年間伊達市役所に勤務する中で手話に出会う。現在、登別市役所保健福祉部障害福祉グループに手話通訳専門員として勤務。